

「もったいない」を合言葉に

長沼町立長沼中学校 三年 竹下 心結

私は小学生の弟に対して、「もったいない」とよく注意します。中でも、私が特に注意するのは、水の無駄遣いです。昔は、よく自分も水を出しっ放しにして、父や母に注意されていました。

昨年の夏、町の海外派遣事業で、オーストラリアにホームステイをしました。オーストラリアは、日本よりも降水量が少ないため、日本のように水を出しっ放しにすることは、まずありません。オーストラリアの家庭の多くは、夜の電力で水を温めて、屋上にあるタンクにお湯を貯めています。そのため一日に使えるお湯の量が決まっています。シャワーを浴びるときも五分以内で済ませなければなりません。食器洗いの手伝いをしたときも、水を流しながらするのではなく、溜めた水の中で洗ってから最後にきれいな水で洗うように、と言われました。また、屋根のタンクに溜めた雨水を生活用水にも使います。全ての生活の中で、貴重な水を大切にしていました。

約一週間という短いホームステイでしたが、振り返ってみれば、オーストラリアでは、こんなにも水不足に直面しているのに、日本では必要以上の水を平気で使う生活をしています。日本は幸せだなと思いました。でも、こんな贅沢な生活をしていいのかと、水に対する私の意識は、大きく変わりました。

調べてみると、世界では、水を自由に使えない国がたくさんあることがわかりました。例えばバングラデシュでは、水を浄化する設備が整っていないため、汚染された河川や地下水からの水を利用するしかなく、相当な人たちが健康被害に遭っています。また、アフリカでは、干ばつのため、遠くの川や井戸まで何時間もかけて水を汲みにいきます。もちろん濁った水です。人は、生きていくためには、汚れた水でも飲むしかないのです。ユニセフの報告では、安全な水を手に入れない人は六億人以上もいて、毎日八百人もの子どもたちが、水が原因で命を落としているというのです。日本で暮らす私たちは、不自由なく水を使えることを、「幸せ」と言う言葉だけで終わらせてはいけない気がしました。

私たちは、今こそ水を大切にしなければならないのです。地球温暖化、汚染物質の飛来など、日本にも影響が出てきています。この問題は、全く水には影響がないとは言い切れません。水への関心が薄れていけば、水不足、水質汚染へとつながっていくのではないのでしょうか。だから、まずは、日本の水を守り、そして、世界の水を守っていくという意識を持たなければならないと思うのです。

水道の関係の仕事をしている父には、水の尊さは勿論のこと、平気で飲める水道水の確保や維持の大変さを教えてもらいました。母は、食器洗いのときに水を貯めて洗うなど、節水を心がけ、油は直接流さないようにしています。家族の些細な取り組みから、世の中の水事情も変えることができるのではないかと思います。「もったいない」を合言葉に、家族で水を大切にすることにしました。

「もったいない。」

この言葉は、外国語にはない日本独特の感覚の言葉だそうです。私は、この「もったいない」を、弟に、そして友達に、全ての人に何度でも言います。嫌がられても、うるさがられても、水は本当に大切なものなのだとわかってもらえるまで言い続けます。

水は、本当にかげがえのないものです。この地球の財産を人間の手で守り、生きていくために大切に使うしなければなりません。これからの未来を担う私たちが意識を変え、後世にも自慢できるきれいな水を残していく必要があるのです。私も弟と一緒に水を大切にし合い、これからの未来を、豊かな水であふれる世の中にして行きたいです。そして、世界中の誰もが安心して水を飲めるよう、小さなことから活動が続けていきます。